

医療技術の絶え間ない進展のためには

それを支える研究開発が不可欠であることは自明であり、研究医を志す医師が激減している昨今においては、リサーチマインドを兼ね備えた医師・医学者の育成は喫緊の課題であると考えております。

私自身は基礎研究者として今後も生命の本質を理解するような医学研究の推進を心掛けていく所存ですが、臨床の現場で活躍されている先生方をはじめ、優れた異分野の医師・研究者と連携することで、基礎研究の知見を臨床現場での課題解決に役立てるような応用研究へと発展させていきたいと考えております。微力ながら熊本大学の研究と教育の発展に貢献できるよう研鑽に励んでまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、宜しくお願ひ申し上げます。

**熊本大学大学院生命科学研究所  
脳神経内科学講座教授  
就任のご挨拶**



熊本大学大学院生命科学研究所  
脳神経内科学講座教授  
**植田 光晴**

令和二年四月一日付で熊本大学大学院生命科学研究所脳神経内科学講座教授を拝命いたしました植田光晴と申します。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

私は山口県下関市で生まれ育ち、地元の下関西高等学校を卒業致しました。熊本大学医学部を卒業後は、本学の初代神経内科教授である内野誠先生が主宰されておられました教室に入局しました。神経内科医の職人的診断技術と脳や神経に対する漠然とした憧れから神経内科を選びました。熊本大学医学部附属病院、済生会熊本病院、熊本市民病院で研修を受けた後に、荒尾市民病院で勤務いたしました。その際に、家族性アミロイドポリニューロパチー（FAP）患者さんの診療に従事し、患者会等にも参加する機会をいただきました。

FAPは熊本に大きな患者フォーカスのある常染色体優性の遺伝性神経疾患ですが、自律神経障害や末梢神経障害の進行と共に、重度の起立性低血圧、持続性の嘔吐や下痢、四肢の萎縮と麻痺、呼吸不全、難治性の緑内障や心不全を生じます。その全身に生じる重度の病態は、それまでに経験した神経難病の中で最も悲惨なものでした。その後、熊本大学大学院へ進学させていただき、国際的に本疾患の研究と診療をリードされています安東由喜雄先生（後の二代目神経内科教授）のご指導の下、現在まで本疾患の研究、診療に従事させて頂いております。その間、FAPに対する治療法が次々と研究、開発、臨床応用されました。肝

移植療法に始まり、蛋白質安定化剤、核酸医薬による gene silencing 療法が実用化

されたことで本症の予後は改善しつつあります。しかし、現在も解決すべき臨床的課題はまだ山積していますので、本症を真に克服すべくさらに研究を深めたいと存じます。FAPに対する前述の先進的な治療法の実用化は、他の神経難病に対する治療法の開発にも大きな勇気と示唆を与えています。本疾患の研究で学んだノウハウを生かして、今後は様々な神経難病に対する治療法の開発も目指します。

熊本の脳神経内科は、熊本大学第一内科を源流とした長い歴史と実績がございます。また本格的な高齢化社会となり、脳神経内科学講座に期待される役割は極めて大きくなっています。幸い当教室には、アミロイドーシスに加えて、脳血管障害、神経難病、神経筋疾患に対する研究、診療を推進するメンバーが揃っています。今後はコモンディーズに対する高度な診療にも力を入れ、地域から頼りにされる医局でありたいと願っています。脳神経疾患に幅広く対応していますので、是非ご紹介頂きたく存じます。また、これから脳神経内科に入局し共に活動してくれるメンバーが充実した医師人生を過ごす場となり、次世代に発展的に継承できる様に努力したいと存じます。今後ともご指導、ご支援の程、どうぞよろしく

お願ひ申し上げます。

**熊本大学病院医療の質・安全管理部  
教授  
就任のご挨拶**



熊本大学病院  
医療の質・安全管理部  
教授  
**近本 亮**

熊本大学病院医療の質・安全管理部教授を拝命いたしました近本亮と申します。谷原秀信病院長が本院の病院機能を充実させることを目的として、医療の質・安全管理部に教授職を創設され、二〇二〇年四月一日付で就任いたしました。

私は熊本県立熊本高等学校を経て本学医学部に進み、一九九四年に卒業後、熊本大学第一外科学教室に入局いたしました。入局後は平岡武久先生のご指導を受け、肝胆膵外科の道に進みました。二〇〇一年からオーストラリア、ブリスベンへ二年間留学し、脳死肝移植の勉強をする機会もいただきました。本院の臓器別再編に伴い消化器外科教室が誕生し、二〇〇五年に初代教授として馬場秀夫先生が着任されたからは、消化器外科教室の一員として、臨床、研究、教育に携わって参りました。二〇一五年に当時の病院長水田博志先